

〒610-0341
京都府京田辺市薪堀切谷1
TEL 0774-63-2000
FAX 0774-65-5388

<http://www.kyotanabe.ed.jp/nc21/takigi-es/htdocs/>

たきぎ

12月

—学校教育目標—
豊かな心と優れた知性を持ち、
心身ともに健やかに、
ひとり立ちできる児童の育成

令和4年11月28日

「子どもが成長し続けるために ずっと続けたい親子の会話」

副教務 今西 涼子

豊かな心と確かな学力を伸ばすために、親子の会話で育んでみませんか？
親子の会話を育むために、4つのことを大切にしてみてください。

1 人と人の絆をつなごう。



時と場に合わせた大人のあいさつを子どもはまねします。だからこそ、ことばも動作も大人が手本を見せて感謝の気持ちはその場ですぐに伝えてみてください。「おかえり。」の後は、子どもの話に少し耳を傾けてください。目を見てゆっくり最後まで、笑顔やスキップで会話をする 것도大切です。

2 互いの思いを伝え合おう。

「それで？」「どうしてほしいの？」と一言添えて話をつないであげることで長く話せるようになります。自分の気持ちをはっきりことばで伝えられたらほめてあげてください。子どものことばを最後までしっかり聞いて受け止めたら、大人の気持ちを心のこもったことばで伝えてください。聞いてもらえる喜びを味わわせてあげたり、その時の気持ちにぴったり合ったことばや言い方を教えてあげたりすることも大切です。



3 知識や考え方を広げよう。



名前をきちんと覚えることで子どもは興味と知識を広げていきます。様子を表すことばを使うことでイメージ豊かに伝えることができます。見たり聞いたり肌で感じたりしたことをことばにすることで表現力が豊かになります。知っているものに例えることで楽しく分かりやすく伝える力が育ちます。その時その場ですぐに教えてあげてください。大人からの問いかけも大切です。

4 響きやリズムを一緒に楽しもう。

声を合わせて、音とリズムを一緒に楽しんでみてください。なぞなぞやクイズでも、ことばを手がかりにしっかり考えることで考える力を伸ばすことができます。親子でことばを楽しむ時間を持つことも大切です。



心温かい大人の会話や言葉から子どもは多くのことを学びます。生きる力を育むためにも家庭での会話は重要です。会話が少なくなっても子どもは親のことばを待っています。顔を見ると恥ずかしいことも、文字にすると素直に伝えることができることもあります。さりげなくメモで伝え合うのもいいですね。子どもの年齢に合わせて世の中のニュースについて、感想や意見を真剣に語りかければ、子どもは大人の話聞きながら知識を増やし教養を身に付けて行きます。親子の会話を育むためにできることからやってみてはいかがでしょうか。



12月の行事予定

日	曜	学校行事 等
1	木	全校朝礼 学校アンケート
2	金	健康手帳配布 登校指導 (PTA)
3	土	
4	日	
5	月	健康手帳回収 諸費振替日
6	火	委員会 4年生:5校時授業
7	水	水曜特別5校時
8	木	6年:JICA 羽石さんの出前授業⑥ 表現タイム
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	5年:男女共同参画推進講座③ 水曜特別5校時
15	木	教育相談 (SC) 学期末5校時 PTA 本部役員会
16	金	短縮4校時・給食終了 個別懇談会
17	土	
18	日	
19	月	短縮4校時・個別懇談会
20	火	短縮4校時・個別懇談会 地域仲良し会④
21	水	短縮4校時・個別懇談会
22	木	短縮3校時・終業式

1月の主な予定

- 10日 (火) 始業式 短縮4校時
- 11日 (水) 短縮4校時
- 12日 (木) 給食開始
- 16日 (月) 標準学力調査 (国語)
- 17日 (火) 標準学力調査 (算数)

12月の生活目標

「友だちに優しい言葉をかけよう」

12月には、人権週間があります。学校にやってくる子どもたち、保護者や地域の皆さん、先生たちが幸せに過ごせる学校にしていきたいと思います。

人権週間の取組として、学級の人権目標を見直したり、それぞれの学年に応じた人権学習を行ったりします。ぜひご家庭でも、人権について話題にしてみてください。

「誰か」のこと じゃない。



人権週間
12月4日～10日

学校アンケートにご協力ください

1日 (木) から、Microsoft 社の Forms を活用した学校アンケートを行います。

後日配布されるプリントの QR コードを読み取り5分ほどのアンケートにお答えいただき、学校の教育活動の改善のため保護者の皆様のご意見をお聞かせください。

子どもたちへのアンケート結果とともに、3学期や来年度の教育計画づくりの検討材料にさせていただきます。

様々な講師の先生方との学習

8日 (木) には、JICA 海外協力隊の羽石さんを講師とした特別授業を行います。国際協力について、海外協力隊としてアフリカに赴任されていたときのお話を中心に、教えていただきます。

14日 (水) には、京田辺市の事業である「子どもを対象とした男女共同参画推進講座」で「みんなが自分らしく生きるために」をテーマに学習を行います。

どちらも、現代社会の課題に目を向け、子どもたちが自分の夢を切り開く力になるよう、計画しております。お家でもお話を聞いてみてください。

個別懇談会の実施

16日 (金) から21日 (水) にかけて、個別懇談会を実施します。

お子様の2学期の成長や課題について保護者の皆様と共有し、3学期のさらなる成長へとつなげていきたいと考えています。

10分間という短い時間になりますが、充実したものとなりますよう、よろしくお願いします。

来校時のお願い

防犯対策のため、児童の登校後は校門を施錠しています。遅刻や早退などでご来校される場合には、必ずインターフォンを押して「学年・組・お子様の氏名・ご用件」をお伝えいただきますようお願いいたします。

また、体調不良等でお迎えに来られる際は、校門を開けて車を入れていただいてもかまいません。

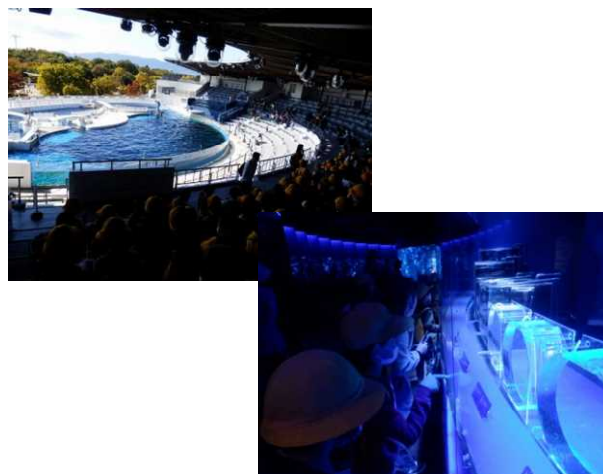
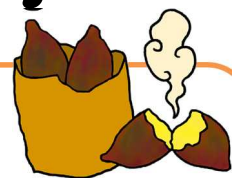


秋の校外学習に行ってきました♪

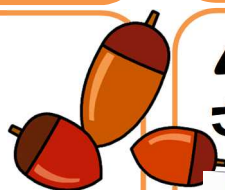
1年生
京都市動物園



2年生
京都水族館



3年生
琵琶湖博物館



4年生
さすてな京都・コトブキ陶春



5年生
京都新聞社・漢字ミュージアム



6年生
京都市内寺社仏閣



令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

本年度4月に、6年生で実施した全国学力学習状況調査の結果について紹介します。

1 国語科

間違いの多かった漢字

ほとんど全ての内容において府や国の平均を上回りました。学年に配当された漢字を書くことができるという内容のみ下回りました。

特に、読むこと・聞くこと・話すこと・書くことの「思考力・判断力・表現力」の観点



は府や国の平均を大きく上回りっていました。これは本校の授業づくりの中で大切にしてきた、「自分の考えを表現する」ということに一定の成果ができてきたと捉えています。今後も研究テーマである「相手や場面、目的に応じて自分の思いや考えをいきいきと表現することができる児童の育成」の取組を続けていきます。

反省
録画

2 算数科

ほとんど全ての領域において、府や国の平均を上回りました。「変化と関係」の領域のみ下回りました。

特に、「C 変化と関係」の中でも正答率が低かった問題は、りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物500mlを2人で分け、分けた後の飲み物に含まれる果汁の割合について問う問題です。この問題に77%の児童が、「①果汁の割合も1/2」と答えていました。これは、割合という言葉が身近な生活と結びついていないことが原因であると考えられます。



他にも算数科の問題をしてみる日常生活の中で算数・数学的な見方や考え方をを用いて問題を解決するような場面を設定しています。今後、算数と日常生活を結びつけ、子どもたちにとって生きて働く力として算数を身に付けさせられるような授業改善を行っていきます。

- ① 果汁の割合も $\frac{1}{2}$
- ② 果汁の割合は2倍
- ③ 果汁の割合は変わらない

3 理科

全ての区分・領域において、府や国の平均と同程度でした。

理科では、問題形式による正答率の違いが見られました。選択式や短答式の問題は正答率が高く、記述式になると正答率が下がります。問題の内容も、友達の考えを聞いて自分の観察文をまとめ直すものや実験結果からわかることを文章で記述するものです。理科においては、実験や観察だけでなく、そこから分かることについて自分の言葉で考えをまとめたり、友達と話し合ったりしながら考えを深める授業展開の工夫を行います。



4 質問紙調査

(1) 基本的な生活習慣についての質問項目は、保護者の皆様のおかげで、ほとんどの項目でよい結果がでていました。今後とも子どもたちの成長の基盤となる早寝・早起き・朝ごはんなどの充実をお願いします。



(2) 家庭でのスマートフォン、タブレット端末の利用時間は、府や国と比べて長いようです。また、心配な部分は、「携帯電話、スマートフォン、コンピュータの使い方について、家の人との約束を守っていますか。」という問いに対して、「きちんと守っている」と回答している児童が30%程度だったことです。「だいたい守っている」と答えた児童、「端末を持っていない」児童とを合わせると85%になりますが、ご家庭でもルールの確認を今一度お願いします。

(3) 子どもたちの自分自身に関する項目は、概ね府や国の平均と同程度でした。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか。」という問いに、23%の子どもたちが否定的な回答でした。子どもたちの自己肯定感を高める指導を学校でも行ってまいります。ご家庭での子どもたちへのポジティブになれるような声かけをお願いします。

